

<No17 : 写真測量>

次の文は、空中写真測量の特徴について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。
次の中から選べ。

1. 撮影高度及び画面距離が一定ならば、航空カメラの撮像面での素子寸法が大きいほど、撮影する空中写真の地上画素寸法は小さくなる。
2. 高塔や高層建物は、空中写真の鉛直点を中心として外側へ倒れこむように写る。
3. 他の撮影条件が一定ならば、山頂部における地上画素寸法は、その山の山麓部におけるそれより小さくなる。
4. 空中写真に写る地物の形状、大きさ、色調、模様などから、土地利用の状況を知ることができる。
5. 自然災害時に空中写真を撮影することで、迅速に広範囲の被災状況を把握することができる。